

インフルエンザ治療薬フォーミュラリー

2026.1 作成 薬剤部

【監修】院内感染対策チーム

本フォーミュラリーに基づき作成したフローチャート参照すること

● 第一推奨薬

内服薬：オセルタミビル錠 75 mg

エビデンスが集積していること、日本小児科学会提言等でも広く推奨されていること、後発医薬品が販売されていること、異常行動に関する警告が削除されたことなどを踏まえ、オセルタミビルを内服の推奨薬とした。

吸入薬：イナビル吸入

日本でしか販売されていないものの、わが国でのサーベイランスでは臨床的有効性が継続していることが報告されており、同じ吸入薬であるリレンザと比べて劣勢である報告もなく、単回吸入であり利便性、薬剤性に優れるため吸入薬の推奨薬とした。

注射薬：ラピアクタ静注

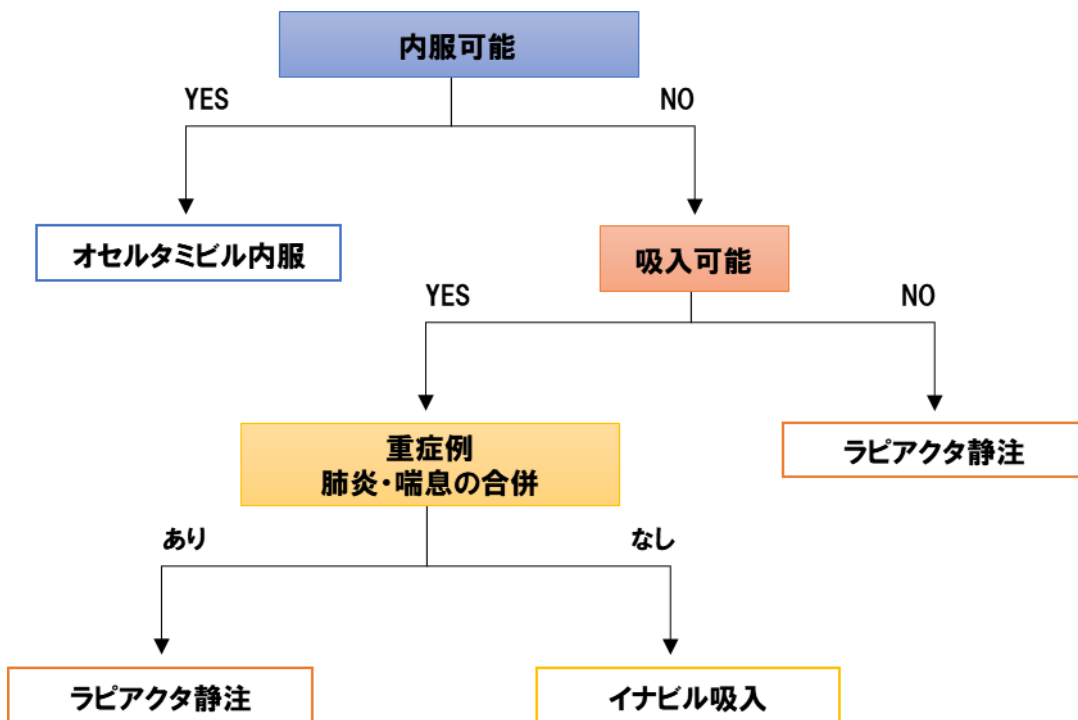
内服や吸入が不可能な患者に使用できること等を考慮し、ペラミビルを条件付き使用推奨薬とした。条件は「内服及び吸入が不可能で、静脈内投与が必要と判断される患者」とした。

◆ 以下の2剤は次回 2026.3 の薬事委員会までに意見を募り、問題なければ採用削除

リレンザ吸入：多回吸入で患者への負担も大きく、長時間の服薬指導を必要とし、吸入可能な患者であれば短時間で服薬指導が可能なイナビル吸入で代替可能なため

ゾフルーザ錠：現時点では重症患者、免疫不全患者及び 12 歳未満の小児ではデータが不十分であり、B 型インフルエンザにしか効果がない。単回投与であるため利便性に優れるものの、経済的な優位性を示す報告はなく、推奨薬で代替可能であるため採用削除とした。

● 成人（妊婦・授乳婦含む）フォーミュラリフローチャート



※妊婦又は妊娠している可能性のある女性に投与する場合には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、授乳婦に投与する場合は治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

● 小児 フォーミュラリフローチャート

